

中国帰国者定着促進センター

紀 要

第1号

1993年

中国帰国者定着促進センター教務課

「中国帰国孤児定着促進センター 紀要」創刊のことば

中国帰国孤児定着促進センターは、1984年2月、埼玉県所沢市に設立、開講されました。当センターは不幸な日中戦争によって、肉親と生別あるいは死別され、自分の身元もわからないまま、中国で成長、戦後も引き続き中国に残留されている日本人孤児とその家族を祖国日本に迎えて、日本で自立するための適応教育を行っております。

開設以来、早9年余の歳月が過ぎました。この間、1993年3月現在、843世帯3320人が所定の研修を終えて、政府（厚生省）が斡旋指定する全国の各都市に定着されています。中国から帰国された方々は、中国で培った言語や生活習慣等の文化が、わが国のそれとは異なるところが多いため、一様に戸惑い、いろいろな場面で障害を体験された事例も決して少なくはありません。こうした実情を踏まえて、実践的な日本語と、生活習慣を含む日本事情の教育に力点をしております。入所された方々は、幼児から、二世青少年、初老の域に達しようとしている方々も含まれている孤児とその配偶者、高齢な中国人養父母にまで至っております（幼児及び養父母は学習対象者ではありませんが）。また、読み書き不自由な人から大学、大学院卒の高学歴者におよび、職種も極めてバラエティーに富んでおります。このような入所者の構成から、クラスは学習者のタイプに合わせて小人数で編成し、いわゆるカルチャーショックを与えないようきめ細かなカリキュラムを組んでおります。教育・指導にあたりましては、異国で孤児として成長された道のりを念頭におき、学生との信頼関係を第一義として、楽しい環境の中で学習がすすめられるよう心掛けています。自立に欠くことのできない言葉や生活習慣も反復して根気よく教え込み身に付けていただいています。当センターを巣立ってから、厳しい実社会のなかで個々の適応能力によって、自立途上で悩みごとに直面して助言を必要とする人も見受けられる反面、多くの修了生から大学入学とか就職採用などの朗報がもたらされ、教育の成果をみております。

このたび「中国帰国孤児定着促進センター 紀要」を発刊する運びとなり

ました。今後も定期的に刊行する計画をすすめております。この紀要は教務課教師が長年蓄積した貴重な体験と問題点にも踏み込んだ実践報告としてまとめました。当センターは他の教育機関と比べ、特殊な教育内容といえましょう。中国帰国者を教育される諸先生をはじめ、関係諸先生に《第2言語教育》の視点から、ご高覧いただき、隔心なきご意見ご批判を賜りますようお願い申し上げます。賜ったご批判を大切にして、さらに内容の充実した教育をすすめます。

中国帰国孤児定着促進センター所長

本埜 和昭